

図 3.8.5 有明海における赤潮発生状況

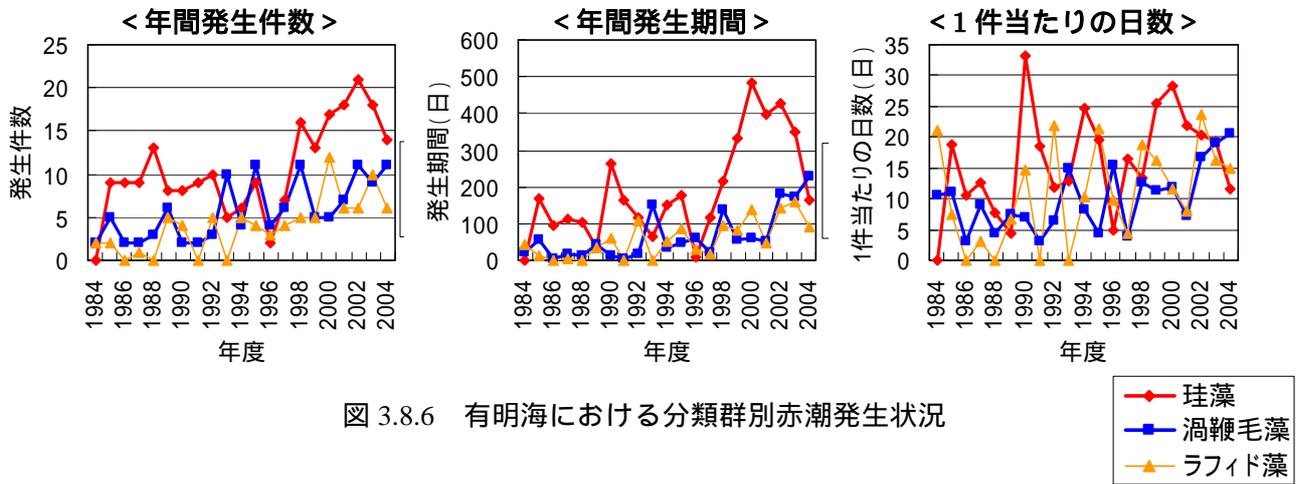


図 3.8.6 有明海における分類群別赤潮発生状況

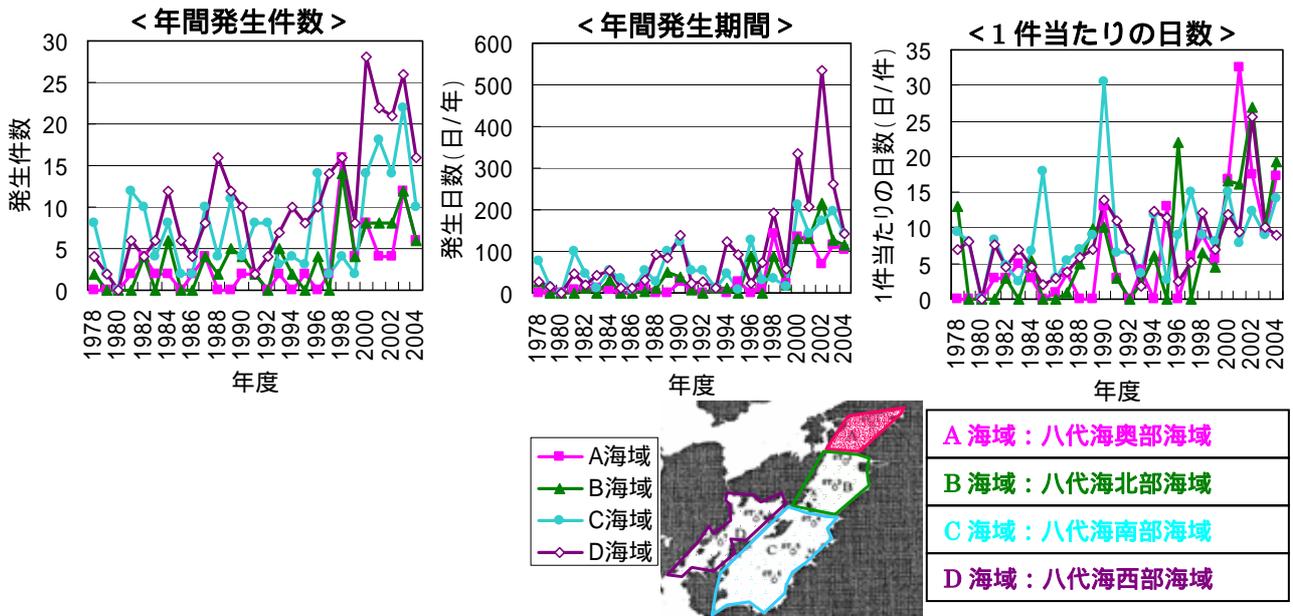


図 3.8.7 八代海における赤潮発生状況

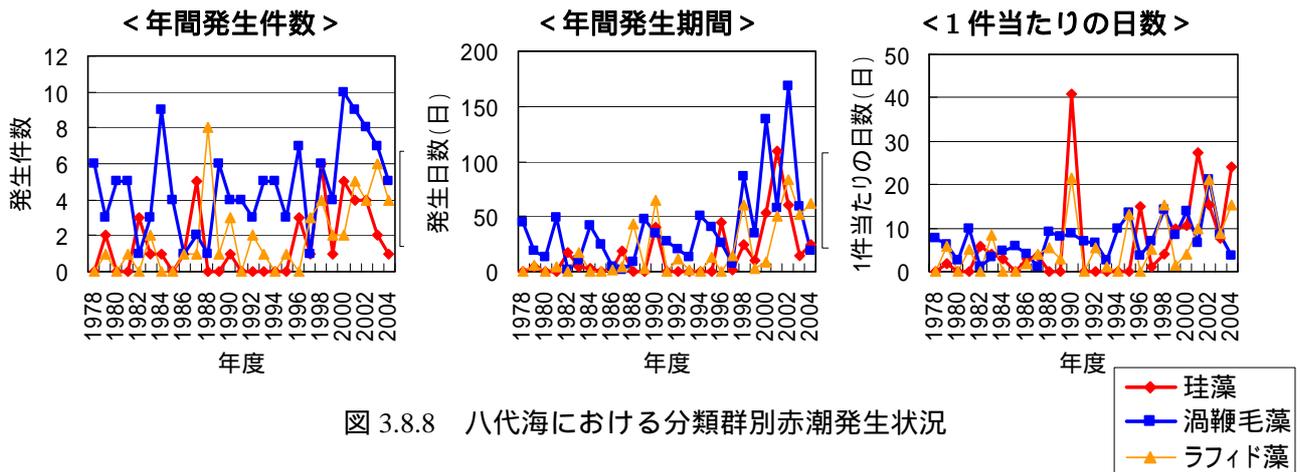


図 3.8.8 八代海における分類群別赤潮発生状況

赤潮原因種の休眠期細胞

海底泥表面に存在する休眠期細胞は、赤潮の発生源として重要であり、同細胞の分布調査により赤潮発生履歴に関する情報を得ることも可能である。

有明海における調査結果によると、珪藻類 (*Skeletonema costatum*, *Chaetoceros* spp., *Thalassiosira* spp.) が主要珪藻類) の休眠期細胞が優占し、湾奥部から湾中央部の海域において 5×10^5 MPN/cm³ を越える高密度で存在していたが、湾中央部から湾口部の海域では密度は低かった (別添資料 28)。

八代海においても有明海と同様に珪藻類の休眠期細胞が優占し (*Skeletonema costatum* が最優占種)、北部から中央部の海域において 10^5 MPN/cm³ を越える高密度で存在していたが、南部海域では密度は低かった。ラフィッド藻については、*Chattonella* spp. がほぼ全地点でみられ、特に北部海域での密度が高かった。また、*H. akashiwo* は主に北部海域に分布していた (別添資料 29)。

(3) 赤潮による漁業被害

有明海

有明海における赤潮被害の年間発生件数は、増加傾向にある (図 3.8.9)。原因プランクトン別にみると、珪藻類による被害件数が多く、ノリの色落ちにより大きな被害が発生している (別添資料 30)。

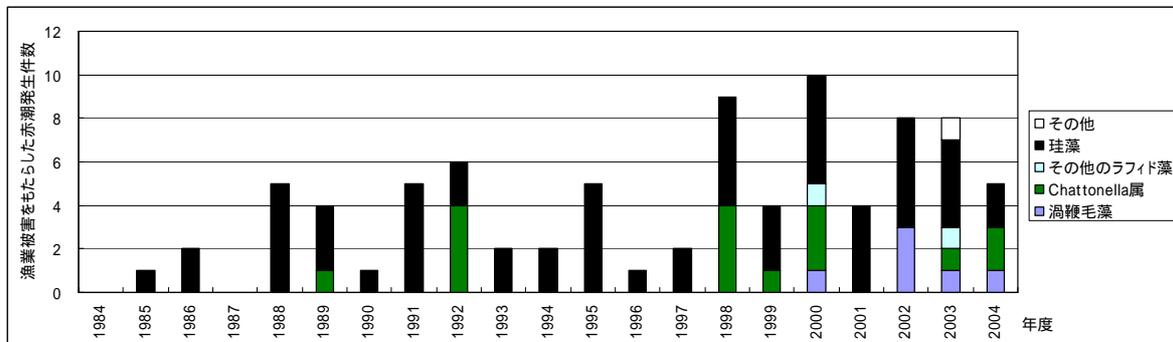


図 3.8.9 有明海において漁業被害をもたらした赤潮発生件数 (年間) の推移

八代海

八代海における赤潮被害の年間発生件数は、1988～1990年に発生件数が多く、その後、減少傾向が見られたが、近年、再び増加している（図 3.8.10）。原因プランクトン別に見ると、*Cochlodinium polykrikoides* と *Chattonella* 属による被害件数が多く、養殖ブリやトラフグ等の斃死により特に大きな被害が発生している（別添資料 31）。

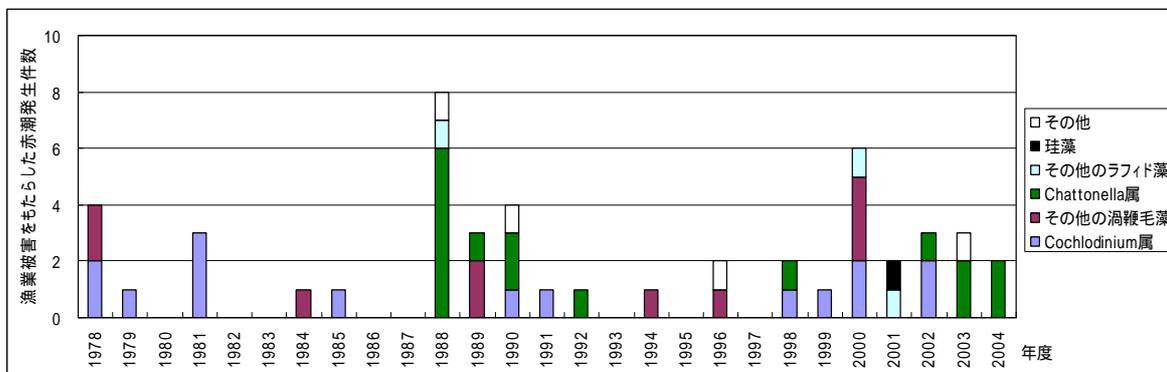


図 3.8.10 八代海において漁業被害をもたらした赤潮発生件数（年間）の推移